

定型発達

R8.5.20
アクション



右のQRコードから
左のページの表示を
お願いします。



合同会社サックスシェア
相談支援専門員 田中 さとる



定型発達



なぜ、定型発達を知るのか？



× できないことを
探すため



○ 次の「飛び石」を
見つけるため

- ・ 子どもは一人ひとりペースが違う
- ・ 「今の立ち位置」を正確に観察する
- ・ 適切な「足場掛け（支援）」を行う

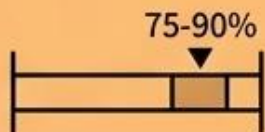


発達を測る3つの代表的な「ものさし」



遠城寺式

- ・特徴：グラフで視覚化
- ・目的：運動・社会性・言語のバランス把握



デンバー式（DENVER II）

- ・特徴：75～90%の通過率で判定
- ・目的：標準枠との比較による発達の確認



KIDSスケール

- ・特徴：約130項目の日常観察
- ・目的：普段の生活全体からの評価

子どもを捉える「5つの観察レンズ」

1. 運動：

全身の動き・バランス



2. 手先：

道具の操作・
微細な動き



3. 言葉：

理解と表出・
コミュニケーション



4. 社会性：

対人関係・
ルールの理解



5. 生活習慣：

食事・排泄・着脱



【運動】 重力との戦いから、コントロールへ

3～6歳：バランスと制御

- ・片足ケンケン（4歳）
- ・スキップ・自転車（5～6歳）

1～3歳：移動の自由

- ・走る・ジャンプ（2歳）
- ・階段を昇る（2～3歳）

0～1歳：重力への適応

- ・首すわり（3～4ヶ月）
- ・おすわり（7～8ヶ月）
- ・一人歩きの開始（1歳）



【手先】 触れる学びから、道具の操作へ

3～6歳：巧みな操作

- ・ハサミで切る（3～4歳）
- ・顔らしい絵を描く（4歳）



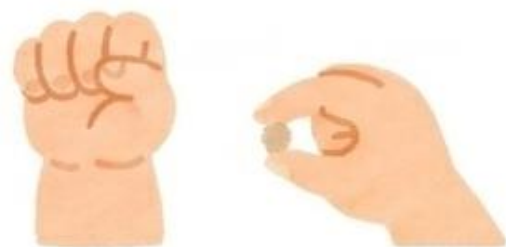
1～3歳：道具との出会い

- ・なぐり書き（1～1.5歳）
- ・積み木を積む（1.5～2歳）



0～1歳：触れて学ぶ

- ・手全体で握る（3～5ヶ月）
- ・指先でつまむ（10ヶ月）



【言葉】音の共有から、ルールへの理解へ

0～1歳：音と視線の共有

- ・喃語（アー、ウー）（2～6ヶ月）
- ・名前がわかる・指差し（10ヶ月～1歳）



1～3歳：言葉の爆発

- ・意味のある単語（1歳）
- ・二語文（ワンワン、キタ）（1.5～2歳）



3～6歳：会話と論理

- ・「なぜ?」「どうして?」（3歳）
- ・数の理解・ひらがな（4～6歳）



【社会性】 愛着の形成から、仲間との協同へ



0～1歳: 愛着と安心

- ・あやされると笑う (2ヶ月)
- ・人見知り・後追い (7ヶ月～1歳)



1～3歳: 自我の芽生え

- ・第一反抗期 (イヤイヤ) (2歳)
- ・親から離れて遊ぶ (2～3歳)



3～6歳: 仲間との関わり

- ・順番を守る・ごっこ遊び (3～4歳)
- ・ルールのある集団遊び (5～6歳)



【生活習慣】 大人の模倣から、完全な自立へ

3～6歳：生活の自立

- ・一人で着替え・トイレ（3～4歳）
- ・身だしなみを整える（5～6歳）



1～3歳：「自分で！」の始まり

- ・スプーンを使う（1.5～2歳）
- ・排泄を教える（事後・事前）（2～3歳）



0～1歳：リズムの獲得

- ・昼夜の区別がつく（3～4ヶ月）
- ・手づかみ食べ（1歳）

全体像の統合：1歳半（探索者）

・運動：一人歩きで世界を広げる

・言葉：数個の単語、指差しで要求

・手先：積み木を積み、なぐり書き

・社会性：大人の真似、後追い

・生活習慣：手づかみ食べ、コップ飲み



メッセージ:

「自分の足で歩き、触って確かめる時期。安全な探索を保障する環境づくりが鍵。」

全体像の統合：3歳（自己主張者）

・運動：三輪車、階段を交互に昇る



・手先：ハサミの開始、丸を描く



・言葉：「なぜ？」「どうして？」、三語文



・社会性：順番がわかる、並行遊び



・生活習慣：トイレの自立開始



メッセージ:

「『自分で！』の意欲と、うまくできない葛藤が交差する時期。気持ちの代弁と見守りが必要。」

全体像の統合：5歳（協同者）

・運動：スキップ、片足立ち（数秒）

・言葉：自分の名前を読む、日常会話

・手先：折り紙、顔や人を描く

・社会性：共通のルールで遊ぶ、思いやり

・生活習慣：着脱・排泄の完全自立



メッセージ:

「仲間と目的を共有して遊べる時期。大人は少し引き、子ども同士のやり取りを支える。」

現場での実践：観察から「足場掛け」へ

Step 1:
今の立ち位置を見極める



- 「できない」ではなく「今はどの段階にいるか」を見る。

Step 2:
半歩先を提示する



- いきなり高い段差を要求しない。次の一步(スモールステップ)を用意する。

Step 3:
待つ・見守る



- 子ども自身が「できた！」と感じるまで、大人は手を出しすぎない。

遊びの発達



快・不快

(やってみたいのもと)
子ども脳

情動をつかさどる扁桃体（大脳辺縁系）

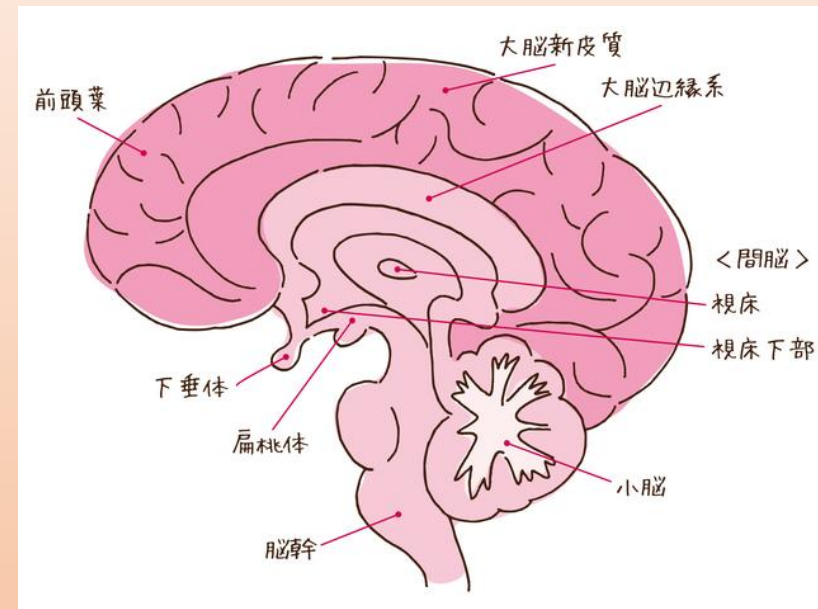
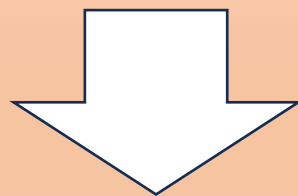
- ・ 幼児期に急激に発達
- ・ 10歳～ さらに発達
(思春期のホルモン影響)

価値観

(ねばならない)
おとな脳

価値観をつかさどる前頭前野

- ・ 20歳から30歳に完成
※感情の抑制、コントロールは
20歳を過ぎても発達



大脳辺縁系（情動をつかさどる）

インプット
五感（感覚神経）

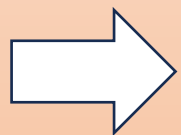
アウトプット
（運動神経）

随意筋

不随意筋

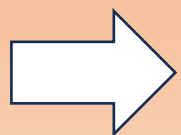
不随意筋

【自律神経】
・ 交感神経
・ 副交感神経



大脳辺系
視床下部が
コントロール

【内分泌系】
・ ホルモン
・ 神経伝達物質
（セロトニンetc.）



大脳辺系
視床下部が
コントロール

神経細胞は、
生まれた直後が最大



3才～
神経回路の刈り込み
～完成は9歳

乳幼児期 あらゆるところにさまざまな大きさや形のポケットをつくっていく時期
学童期 ポケットに、いろんなもの、素材や関係、経験をため込んでいく時期
思春期 ポケットにため込んだものを取り出して、少しずつ再構成していく時期

【ジャン・ピアジェの発達段階】

発達段階	月年齢	特徴
感覚運動期	0歳から2歳	五感の刺激を求め、ものを認知する仕組み（シエマ）同化・調節を繰り返す。
前操作期	2歳から7歳	物事を自分のイメージを使って区別・認識できるようになる。
具体的操作期	7歳から11歳	論理的思考が発達し、他者の立場に立って行動できるようになる。
形式的操作期	11歳から	知識・経験を応用し、結果を予測して行動や発言ができるようになる。

ミルドレッド・パーテンの「遊びの6分類」

分類	月年齢	特徴
何もしない行動	0ヶ月～3ヶ月	子どもが何もせずに見ているだけの状態。興味があるものに対しても行動に移さず、目で追っているだけで何もしようとしない。
ひとり遊び	0ヶ月～2歳	ほかの子どもと関わろうとせず、ひとりで遊んでいる状態。たとえ近くに友だちがいたとしても、ほとんど興味を示さず、自分だけの遊びに没頭する。
傍観者行動	2歳～3歳	友だちが遊んでいる姿をただ眺めているだけの状態。話しかけることはあるが、一緒に遊ぼうとすることはない。
平行遊び	2歳～3歳	友だちの近くで同じ遊びをする状態。近くで遊んでいるものの、関わろうとすることはない。しかし、友だちに興味を持っている状態ではある。
連合遊び	3歳～4歳	友だちと一緒に同じ遊びを楽しんでいるように見えるものの、それぞれが好きなことをしている状態。ままごとを一緒にしているように見えても、役割分担ではなく、個々の遊びに夢中になる。
共同遊び	4歳以上	役割分担が決まった遊びを友だちと一緒に楽しんでいる状態。ままごとでは、「お母さんは〇〇ちゃん」「お姉さんは〇〇ちゃん」など、子どもたちで役割分担を決めながら遊ぶ。遊びの中にルールも存在し、みんなで1つの遊びを展開していく

名称	年齢目安	内容
① 愛着形成期	生後～ 3歳頃	養育者と子供で関わりながら遊ぶ段階。愛着を向けるべき相手を理解し、その相手に対して愛着を深めていく時期。スキンシップが取れる遊びを取り入れる。 例) いないないばあ、くすぐり遊び
② 感覚遊び期	2.3カ月頃 ～2歳頃	視覚・聴覚・平衡感覚等の刺激を楽しむ段階。感覚器官が発達していく時期。感覚器官を使う遊びを取り入れる。 例) おはなししましょ、砂遊び
③ 模倣遊び期	2歳頃～ 5歳頃	大人の真似をする遊びから、想像の世界を広げて遊べる様になる段階。他社と関わる遊びも取り入れる。 例) ○○ごっこ、おままごと
④ 運動遊び期	3歳頃～	遊びを通して身体と心の成長を促していく段階。心肺機能を向上させる遊び、他社との関わりを育む遊びを取り入れる。 例) けんけんぱ、スキップ競争、縄跳び遊び
⑤ 構成遊び期	3歳頃～	何かを作り出すという行為をしはじめる段階。手先の感覚や思考力を高めていく遊びを取り入れる。 例) 積み木遊び、粘土遊び
⑥ ルール遊び期	3.4歳頃～	ルールに従って遊ぶことができる段階。ルールのある遊びや目的のために組織を作ることができる遊びを取り入れる。 例) 鬼ごっこ、双六、ボードゲーム
⑦ 自律期	6～10歳頃	相手に合わせて、自分は我慢して遊ぶことができる段階。自分で考え、その通りに動くことができる力を育む遊びを取り入れる。 例) 背文字ゲーム、かくれんぼ、伝言ゲーム

心の発達



発達と人間関係

【道徳の内容配列】

小学校				中学校
小学校 1・2 年	小学校 3・4 年	小学校 5・6 年		
1 主として自分自身に関すること				
(1) 基本的な生活習慣	(1) 基本的な生活習慣	(1) 基本的な生活習慣・節度節制	(1) 基本的な生活習慣・調和のある生活	
(2) 勤勉努力	(2) 勤勉・粘り強さ	(2) 希望・勇気・努力	(2) 希望・勇気・強い意志	
(3) 善悪の判断・勇気	(3) 善悪の判断・勇気	(3) 自由・自律・責任	(3) 自主自律・誠実・責任	
(4) 正直・明朗	(4) 正直・明朗	(4) 誠実・明朗	(4) 真理愛・理想の実現	
	(5) 個性の伸長	(5) 真理愛・創意工夫	(5) 向上心・個性の伸長	
		(6) 個性の伸長		
2 主として他の人とのかかわりに関すること				
(1) 礼儀	(1) 礼儀	(1) 礼儀	(1) 礼儀	
(2) 思いやり・親切	(2) 思いやり・親切	(2) 思いやり・親切	(2) 人間愛・思いやり	
(3) 友情	(3) 信頼友情	(3) 信頼友情・男女協力	(3) 信頼友情	
		(4) 寛容・謙虚	(4) 異性の理解	
(4) 感謝	(4) 尊敬・感謝	(5) 尊敬・感謝	(5) 寛容・謙虚	
			(6) 尊敬・感謝	
3 主として自然や崇高なもののかかわりに関すること				
(1) 生命尊重	(1) 生命尊重	(1) 生命尊重	(1) 生命尊重	
(2) 自然愛・動植物愛護	(2) 自然愛・動植物愛護	(2) 自然愛・畏敬の念	(2) 自然愛・畏敬の念	
(3) 畏敬の念	(3) 畏敬の念	(3) 畏敬の念	(3) 弱さの克服・生きる喜び	
4 主として集団や社会とかかわりに関すること				
(1) 規則尊重・公徳心	(1) 規則尊重・公徳心	(1) 公徳心・規則尊重・権利義務	(1) 法の遵守・権利義務	
		(2) 公正公平・正義	(2) 公徳心・社会連帯	
		(3) 役割と責任の自覚	(3) 正義・公正公平	
(2) 勤労	(2) 勤労	(4) 勤労・奉仕	(4) 役割と責任の自覚	
(3) 家族愛	(3) 家族愛	(5) 家族愛	(5) 勤労・奉仕・公共の福祉	
(4) 愛校心	(4) 愛校心	(6) 愛校心	(6) 家族愛	
(5) 郷土愛	(5) 郷土愛	(7) 郷土愛・愛国心	(7) 愛校心	
	(6) 愛国心・国際理解	(8) 国際理解・親善	(8) 郷土愛	
			(9) 愛国心	
			(10) 国際理解・人類愛	

寛容・謙虚

【道徳のねらい】

道徳教育の目標は、第1章総則の第1の2に示すところにより、学校の教育活動全体を通じて、道徳的な心情、判断力、実践意欲と態度などの道徳性を養うこととする。

感情	手段	防衛	誤解	欲求	価値
----	----	----	----	----	----

年齢	心の発達の主な特徴	感情・対人関係	コミュニケーション・ことば	心の理解
0歳 (0～12か月)	人への興味が育つ	・笑顔に反応 (社会的微笑) ・抱っこで安心	・泣きで気持ちを伝える ・喃語が始まる	・自分と他者の区別が芽生える
1歳 (12～24か月)	自分の気持ちが芽生える	・イヤイヤ期の始まり ・人見知り	・単語が出る (ワンワン等)	・自分の欲求を優先
2歳	自我が強くなる	・“じぶんの！”が増える	・二語文 (ママきて)	・相手の気持ちはまだ理解困難

感情	手段	防衛	誤解	欲求	価値
----	----	----	----	----	----

年齢	心の発達の主な特徴	感情・対人関係	コミュニケーション・ことば	心の理解
3歳	気持ちの種類が増える	・ 友だちと少しずつ遊べる	・ 会話が増える	・ 相手にも気持ちがあると気づく
4歳	社会性が伸びる	・ けんかが増える(学習期) ・ 順番・交代の理解	・ 感情の言語化が進む	・ 相手の視点を少し理解
5歳	相手理解が伸びる	・ ごっこ遊びで役割理解 ・ 協力できる	・ 複雑な文で話す ・ 理由説明が可能	・ 心の理論が発達

発達と人間関係

感情	手段	防衛	誤解	欲求	価値
心の発達の特徴	感情・対人関係	思考・学習	自己理解・心の理論		
“学齢期の心”が育ち始める	・ルール意識が育つ ・友だちトラブルが増える ・大人の承認を求める	・具体的に考えるのが得意 ・学習の基礎が整う	・自他の気持ちを区別 ・相手の視点を理解し始める		
自立心が伸びる時期	・仲間意識が強くなる ・グループ内の位置を気にする ・正義感が強まる	・論理的思考が発展 ・計画性が芽生える	・相手の感情理解が深まる ・劣等感や恥ずかしさが増える		
抽象的な考えが育ち始める	・友人関係が固定化 ・深い悩みが増える ・協調と主張のバランスを学ぶ	・抽象概念の理解が進む ・原因と結果を考える力が育つ	・自己評価が現実的に ・他者の意図を推測できる		
思春期の入り口	・自尊感情が揺れやすい ・友だちの影響が強くなる ・自分らしさを意識	・仮説的思考の萌芽 ・自己管理能力が伸びる	・複雑な気持ちを分析 ・第三者視点の発達		

心の理論とは

心の理論ってなに？

(Theory of Mind)

「相手の気持ちや考えていることを“想像して”理解する力」

「“自分と相手はちがう気持ち・ちがう考えをもっているんだ”と気づける力」

① 相手がどう思っているか考えられる
「この人は悲しんでいるかも…」
「こう言ったらイヤな気持ちになるかな…」
など、相手の心を想像できる

② 相手が見えていないものを理解できる
自分は知っていても、相手は知らないことがあると理解できる

③ 相手の立場に立って考えられる
「もし自分が相手だったら、どう感じるかな？」という想像ができる



サリーとアンの課題